

## ダニエル書4章17節 「人間の国を支配される方」

### 1A 終わりの日の予型

1B 人の像

2B 金の像

### 2A サタンの思惑

1B 自身の墮落

2B 人間へのそそのかし

3B 拒まれるキリスト

4B 受け入れる反キリスト

### 3A 神の嘲笑い

1B 獣にされた王

2B 獣とみなす神

3B 滅ぼされるキリスト

### 3A 教会に忍び込む教え

1B 「知識」と呼ばれるもの

2B 中傷する偽教師

3B 背教と反キリスト

### 4A 知者を愚かにする神

## 本文

今晚は、前回の4章までの学びを、改めてダニエル書全体の中から、そして神のご計画全体の中から見ていきたいと思えます。4章17節をお読みします、「この宣言は見張りの者たちの決定によるもの、この要請は聖なる者たちのことばによるもの。これは、いと高き方が人間の国を支配し、これをみこころにかなう者に与え、また人間の中の最も低い者をその上に立てることを、いのちある者たちが知るためである。」前回、ネブカドネツアル王が自分の宮殿で、自分の王家、自分の威光と権力を誇った時に、理性が取り除かれ、獣のようになったところを見ました。

その時の、天からの聖なる者の宣言に注目したいと思います。「いと高き方が人間の国を支配し、これをみこころにかなう者に与え、また人間の中の最も低い者をその上に立てる」ということです。ここには三つのことが書いてあります。第一に、人間の国を支配するのはいと高き方であるということです。人は神から権威と力を任せられますが、究極的には神ご自身が支配しておられるということです。第二に、それを、みこころにかなう者に与えられる、ということです。第三に、みこころにかなう者のうちでも、最も低い者をその上に立てる、ということです。

この三つの条件を満たす人はだれでしょうか？私たちの主、イエス・キリストです。この方はいと高き方の子であり、この方が人間の国を支配しておられます。王の王、主の主であられます。そして、父なる神は、彼をみこころにかなう者にしておられました。イエス様がバプテスマを受けられた時に、「わたしはあなたを喜ぶ。(ルカ 3:22)」と言われました。この方が、神のみこころにかなっています。そして、この方は神の御子であられるのに、へりくだり人の姿を取られて、実に死に至るまでへりくだられました。だれが最も自分を低くしたか？と言ったら、イエス・キリストなのです。ですから、神はこの方を、すべての権威の上に置かれ、引き上げられたのです。「ピリ 2:9-11 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。10 それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが膝をかがめ、11 すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。」

ネブカドネツアル王が、獣のように低くされて、その後で王位が戻り、絶大な権威が与えられたというのは、キリストの御霊が彼に働いていたということができるでしょう。

### 1A 終わりの日の予型

この世界の歴史は、神の国に対して、いかに人間がひれ伏し、服するかにかかっていると言えるかもしれません。神の支配されている国があるのに、人がそれに反抗し、自分こそが支配していると思いがり、神を退け、また神を冒瀆し、自分こそが神であるかのようにふるまう高ぶりがあります。世の霊はそのように、人を高ぶらせ、キリストの御霊は人をへりくだらせるのです。

### 1B 人の像

ダニエル書は、その一つ一つの出来事が、終わりの日における完成へ向かう伏線になっています。2章において、ネブカドネツアルの見た夢は、「人の像」でしたね。ここから、神の国ではなく人間の国が主役となっているかのような世界の歴史が続くことを教えていました。しかし、二つのことを神は教えられます。第一に、人間の国は、どんなに権力のある者がその座に着こうとも、長く続かないということです。金から銀へ、銀から青銅へ、青銅から鉄、最後は鉄と粘土が混じった状態です。そのように、国々が入れ替わっていくことによって、人間が支配しているのではなく、神ご自身が王を立て、王を倒しているのだということが分かります。今の時代、アメリカ世界覇権の終わりが始まって、中国やロシアが台頭していると言われますが、アメリカも永遠ではないのです。そして、その後の中国やロシアも永遠ではないのです。

そして第二に、この像でもっと大事なことは、人手によらず切り出された石が、人の像を粉々に打ち砕くということです。この石はキリストです。そしてその石が大きな山となり、それが永遠の御国であるということです。これら人間が、自分たちが第一の者だとする戦いを、再臨のキリストが粉碎されます。そして、神の国を打ち立てるのです。

ネブカドネツアル王の見た、人の支配の栄光を究極に求めるのが、終わりの日に現れる反キリストであります。7 章で、第四の獣の頭に十本の角が生えます。その間に、「もう一本の小さな角」が出てきます。初めの角のうち、三本を引き抜きますが、「よく見ると、この角には人間の目のような目があり、大言壮語する口があった。」とあります(7:8)。人間のような目です。これは、人間としての知性がすぐれていて、そのため高慢になって、冒瀆する口を持っているということです。7 章 25 節には、「いと高き方に逆らうことばを吐き、いと高き方の聖徒たちを悩ます。」とあります。それで黙示録 13 章を見てください。「黙 13:5-6 この獣には、大言壮語して冒瀆のことばを語る口が与えられ、四十二か月の間、活動する権威が与えられた。6 獣は神を冒瀆するために口を開いて、神の御名と神の幕屋、また天に住む者たちを冒瀆した。」とあります。人間の国の王の姿がこれです。知性、理性が強くなって、神や天に住む者たちを冒瀆するのです。

そして、ダニエル書 11 章で、クライマックスになっているところで出てくる、王の姿はこのようなものです。「11:36-37 この王は思いのままにふるまい、すべての神よりも自分を高く上げて大いなるものとし、神々の神に向かって驚くべきことを語る。彼は栄えるが、ついには神の憤りで滅ぼし尽くされる。定められていることがなされるからである。37 彼は先祖の神々を心にかけて、女たちの慕うものも、どんな神々も心にかけて。すべてにまさって自分を大いなるものとするからだ。」これが、人間の国の王、反キリストの究極の姿です。

## 2B 金の像

2 章が、人の像という内容でしたが、3 章は、金の像をバビロンの支配下にある者たちに拝ませるという話でした。3 章の学びの時に話しましたが、それは、王が金の頭でしか過ぎなかったのに、永遠のその栄光と権力は続くのみなしていたものであり、やはり高ぶっていたことを表しています。そして、その寸法が不気味でしたね。高さは 60 キュビト、幅が 6 キュビトです。六は、神の数字である七の一つ少ない姿、人間の姿を示していて、神を愛するソロモンが人間の平和を求めてしまったことから、金の目方が六百六十六タラントであったこともお話ししました。そして、黙示録 13 章には、獣の像を拝ませて、その獣の数字が六百六十六であることが示されていました。人間の国において、その支配者の像を拝ませるというのが、一つの大きな流れにあるのです。

ヨハネがこのことを書いている時に、聞いていた人々はローマ皇帝の像を拝むように強いられました。門のところには皇帝の像があり、そこで焼香しないと、彼は拝まなかったと咎められ、そこにある市場で売り買いができなくなります。人間の支配ではなく、キリストの支配を選んだ者たちが、基本的な経済活動ができなくされるということです。そして、歴史の中でどれほど、自分の像を造らせて、拝ませたかしれません。北朝鮮には、観光に来る人々に金日成の像を拝ませます。また、ソ連では、レーニンの像やスターリンの像がありました。

その流れの最後には、全世界を支配する、獣が像を造らせ、それを拝ませるというものがある

のです。イエス様が、オリーブ山で弟子たちに警告されました。「マタ 24:15-16 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす忌まわしいもの』が聖なる所に立っているのを見たら——読者はよく理解せよ——16 ユダヤにいる人たちは山へ逃げなさい。」イエス様は、ダニエルの預言にある通りであることを、はっきりと意識されてこう語っておられます。8章で、荒らす忌むべきものが、ギリシア王アンティオコス・エピファネスによって据えられることが預言されています。それが、世界的に反キリストによって行われます。その時は、自分自身の像を拝ませることになります。そして、パウロはテサロニケの人たちに第二の手紙で話しました。「Ⅱテサ 2:4 不法の者は、すべて神と呼ばれるもの、礼拝されるものに対抗して自分を高く上げ、ついには自分こそ神であると宣言して、神の宮に座ることになります。」そして黙示録 13章です。「13:14-15 また、この獣は、あの獣の前で行うことが許されたしるしによって、地に住む者たちを惑わし、剣の傷を受けながらも生き返ったあの獣の像を造るように、地に住む者たちに命じた。15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がものを言うことさえできるようにし、また、その像を拝まない者たちをみな殺すようにした。」

## **2A サタンの思惑**

### **1B 自身の墮落**

なぜこうも、人間は高ぶるのか？人間の国は高ぶるようになるのか？というと、初めに悪魔が、その高ぶりのゆえに墮落したことが挙げられます。バビロンの王に対する預言が、イザヤ 13-14章にあります。王の背後に働いている天使の存在を、神はイザヤを通して暴いておられます。「14:12-15 明けの明星、暁の子よ。どうしておまえは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしておまえは地に切り倒されたのか。13 おまえは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山で座に着こう。14 密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。』15 だが、おまえはよみに落とされ、穴の底に落とされる。」

### **2B 人間へのそそのかし**

神の御座のそばにいる天使が墮落して、次に現れたのがエデンの園です。そこで、自分の墮落の道に引きずり込んだのです。

人は、神のかたち、云わば神の像として造られました。神がどのような方なのかを、示すためのかたちです。「人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。(創世 1:26)」神と一つになることによって、この方により頼み、この方に従うことによって、神を知っていることによって、地上にあるものを支配します。神に似たものなのですが、神自身ではもちろんありません。しかし、神と一つになることによって、神の栄光を表すのです。

ところが、神から独立しなさいとそそのかしたのが、蛇です。「創 3:5 それを食べるそのとき、目が開かれて、あなたがたが神のようになって善悪を知る者となることを、神は知っているのです。」

こうして神の言われることに背いて、神のようになりなさいとそそのかしました。ここに高ぶりの罪があります。神の言われることは聞かず、けれども神のようにふるまいたいと願うことです。

### 3B 拒まれるキリスト

キリストは、その逆のこゝたを行われまゐた。神の御子であるにもかゝわらず、ご自分を低くして、人の姿を取られました。そして神の子であるならば、当然行うことのできたことを拒みまゐた。40日間の断食の後、空腹を覚えていた時に、石をパンに変えろと悪魔から言われまゐます。次に、神殿の頂から飛び降りろと言われまゐます。そして、高い山に連れていかれて、この世のすべての王国とその栄華を見させられ、「もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう。」と誘われたのです(マタイ 4:9)。イエス様はこの三つの誘惑に対して、すべて御言葉を通して、具体的には申命記にある律法を通して立ち向かわれまゐました。すべて、父なる神に従う、しもべとして、神の命令に従う形で対抗されたのです。イエス様には、神の子として全能の力が与えられていまゐましたが、またすべての神の栄光を持っておられますが、しかし、それは父と自分が一つであり、御父に自分が従い、父の愛の中に留まっているからこそ与えられているものであることを知っておられたのです。だからこそその力であり、権威であり、御子としての位でした。

そして、イエス様は十字架の死に至るまで忠実であり、それゆえよみがえられ、天の神の右の座に着いておられ、この世界をすべて相続しておられるのです。この世の栄華はすべてイエス様のものですが、すぐに手に入れるという誘惑を退けられました。十字架への道、その血の対価を支払って、それで世界を神のもとに買い取られたのです。十字架へ向かうへりくだりによって、あらゆる名にまさる名が与えられました。

### 4B 受け入れる反キリスト

このような、すぐに自分の願っていることを与えようとする霊が、この世に働いていまゐます。今は、何でも手に入れられる時代です。自分の必要、いや欲望をすぐに満たしてくれる時代にいまゐます。大事なのは、正しいことを愛して、へりくだって主と共に歩むことなのに、そこに必要な忍耐を素通りして、すぐに手に入れるように持っていこうとしまゐす。

世の終わり、悪魔が与える力、権威、位を受け取る人物が出て来て、それが反キリストです。「黙 13:4 竜を拝んだ。竜が獣に権威を与えたからである。また人々は獣も拝んで言った。「だれがこの獣に比べられるだろうか。だれがこれと戦うことができるだろうか。」」

### 3A 神の嘲笑い

#### 1B 獣にされた王

ところで、ネブカドネツアル王が獣のようにされたことは、興味深いです。自分こそが権威があり、力があると、人間の国の頂点を行こうとしていた時に、獣のようにされたのです。神は、そういった

自分にこそ力と栄誉があるのだとする者たちを、理性があるとは見ておらず、獣のように見ておられます。彼が、自分の上には天の神がいると知った時に、理性が戻って来ました。

世は、自分たち人間が理性で支配することがもっとも人間らしい、知性に満ちているとしています。しかし獣のような存在でしかないのです。「ロマ 1:21-23 彼らは神を知っていながら、神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その鈍い心は暗くなったのです。22 彼らは、自分たちは知者であると主張しながら愚かになり、23 朽ちない神の栄光を、朽ちる人間や、鳥、獣、這うものに似たかたちと替えてしまいました。」極端にまで知性や理性を求めていく世界で、人は狂っていきます。極度の高慢に陥ります。

## 2B 獣とみなす神

2章において、ネブカドネツアル王が人の像を見ましたが、その同じ国々を示している幻を、ダニエルは7章で見えています。そこに現れるのは獣なのです。獅子のような獣、熊のような獣、そして四つの頭を持つ豹、それから鉄の牙をもつ獣です。そして、その獣が天から来られる人の子によって、滅ぼされ、第四の獣は火の中に投げ込まれます。

## 3B 獣を滅ぼすキリスト

そして、黙示録に、ダニエル書7章で預言されていることが、より詳しく19章で見ることができます。「19:19-20 また私は、獣と地の王たちとその軍勢が集まって、馬に乗る方とその軍勢に戦いを挑むのを見た。20 しかし、獣は捕らえられた。また、獣の前でしるしを行い、それによって獣の刻印を受けた者たちと、獣の像を拝む者たちを惑わした偽預言者も、獣とともに捕らえられた。この両者は生きたまま、硫黄の燃える火の池に投げ込まれた。」

## 3A 教会に忍び込む教え

このようにして、4章の中に、神の国に反抗する人間の姿が見えました。その先には反キリストの出現があることが分かりました。けれども、聖書はさらにいっそう、厳しいことを警告します。それは、教会が世のようになってしまうこと、背教が起こることを教えているのです。

## 1B 「知識」と呼ばれるもの

キリストにつながれるところの知識ではなく、ただ知識を持っていることで満足することについて、パウロは、「知識は人を高ぶらせ、愛は人を育てます。( I コリ 8:1 )」と言いました。しかし、高ぶりの中で論争をして、全く敬虔さについて学んでいない者たちのことを、テモテへの手紙第一で話しています。「 I テモ 6:3-4 違ったことを教え、私たちの主イエス・キリストの健全なことばと、敬虔にかなう教えに同意しない者がいるなら、4 その人は高慢になっていて、何一つ理解しておらず、議論やことばの争いをする病気にかかっているのです。そこから、ねたみ、争い、ののしり、邪推、絶え間ない言い争いが生じます。」そして、このような人々について、信仰から離れていくのだと言っ

ています。「6:21 ある者たちはこの「知識(グノーシス)」を持っていると主張して、信仰から外れてしまっています。」神の教えの中に生きるのではなく、知性や理性を優先させることによって、信仰から外れていくようになるのです。

## 2B 中傷する偽教師

そして、先ほどから話しているように、それは本当の理性でもなく知性でもありません。むしろ、獣のようになってしまっていると、ペテロが第二の手紙で、またユダも手紙の中で話しています。「Ⅱペテ2:12 この者たちは、本能に支配されていて、捕らえられ殺されるために生まれてきた、理性のない動物のようです。自分が知りもしないことを悪く言い、動物が滅びるように滅ぼされることになります。」偽教師が教会の中にも忍び込んでくるのです。

## 3B 背教と反キリスト

こうして信仰を否定し、権威を侮り、反キリストのようになっていくのです。背教と反キリストの現われは一對になっています。「Ⅱテサ 2:3 どんな手段によっても、だれにもだまされてはいけません。まず背教が起こり、不法の者、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないのです。」

8月28日のニュース、つまりつい数日前のニュースですが、アメリカの最も有名な大学の一つ、ハーバード大学で、チャプレンと呼ばれる、大学の中の聖職者、霊的指導者と代表に、無神論者が選ばれたというニュースがありました。無神論のチャプレンという、相矛盾した言葉が並んだのを見て、冗談かと思いましたが、本当のようです。彼の考えが次のようなものです。「どの宗教的伝統にも共感できない人々が増えているが、善良な人間であることや倫理的な生活を送ることの意味についての対話やサポートが必要だと痛感している」と語った。「私たちは、神に答えを求めない。私たち自身が互いの答えだ」<sup>1</sup>

恐ろしいことを言っていますね。神に答えを求めるのではなく、自分たち自身が互いの答えであるということです。自分たちに真理がある。本人は気づいていませんが、これこそ自分たち自身を神としていることです。自分の考え、気持ちを神にしているのです。そうした人が聖職者と言われているのですが、ハーバード大学は元々、ピューリタンの牧師によって始まった学校です。これほどの背教はないでしょう。

## 4A 知者を愚かにする神

神は、こういったことを嘲っておられます。詩篇 2 篇には、神とキリストから与えられた枷、つまり教えや命令を取り外して、相集まって立ち向かおうとする国々の王たちの姿が出ていますが、そこで、神が天から嘲笑っている姿が出てきます。そのこと自体が、滑稽で仕方がないからです。

---

<sup>1</sup> <https://www.afpbb.com/articles/-/3363718>

神は、自分が彼らより賢いことを示すのではなく、彼らの賢さと呼ばれているものがいかに愚かであるかを示すために、救い主を十字架につけることによって救うようにされました。パウロがコリント第一でこう言っています。「十字架のことは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。(1:18)」「ユダヤ人であってもギリシア人であっても、召された者たちにとっては、神の力、神の知恵であるキリストです。(1:24)」十字架につけられたキリストが、知識と呼ばれているものを粉碎します。人間の支配を愚かにして、神の国を近づけます。そこには恵みがあり、神の支配が広がっていくのです。